

KSTNET WEB版 2004年8月号

1. 県士会会長あいさつ

会長 小菌真知子

暑中お見舞い申し上げます。

異常気象の現れなのか、年々上がりつづける平均気温。台風も常軌を逸した進路になっています。私は早めの夏休みで南の島に行ってきましたが、赤道直下というのに熊本より涼しく、ちょうどその時日本では40度を越えた所があるとのニュースを見て驚きました。

酷暑の中、皆様日々の仕事にお励みのことと思います。

7月11日に行われた第1回熊本県言語聴覚士会学術研修会は約90名の参加者を得て、成人、小児にわたる有意義な勉強の機会を持つことができました。準備から講演まで、ご協力いただいた皆様お疲れ様でした。

さて、6月の日本言語聴覚士学会総会の後、緊急に会員の日本言語聴覚士協会加入状況調査を実施しましたが、結果は登録会員46、申請中6、入会予定53名でした。また、アンケートに直接説明を聞きたいと希望を出された病院には、私がお話に向う予定にしております。これからでもかまいませんので、ご不明な点はお申し出下さい。

現会員140名中、7割を超える人数、すなわち98名が入会手続きをすると、熊本県言語聴覚士会も全国協会と連携を取ることができます。県の研修会も全国から先生をお呼びしたり、生涯学習プログラムのポイントとすることができます。また、毎日、言語聴覚障害児・者に接する言語聴覚士としては賠償責任保険にも加入しておきたいものです。

前回の文書の繰り返しになるかもしれませんが、全国協会加入を積極的に勧める理由としては、全国と地方の言語聴覚士会が連携することによって、①まだまだ認知度の低い言語聴覚士の組織基盤を強める、②一人一人の言語聴覚士の資質を高めることができます。これらのことが言語聴覚障害を持つ方々のための訓練機関の増につながり、言語訓練・指導を受ける機会の向上に寄与すると思います。

秋には県士会の学術研究会を予定しており、現在、講師の先生を選定中です。どんな形の発表でもかまいません。日ごろ疑問に思っていること、他のSTならどのように対処するだろうか聞いてみたい症例など、起承転結をふまえた学会発表形式でまとめ、勇気をもって発表してみてください。きっと大きな一歩になることと思います。ご希望の方には、言語聴覚士会の学術研修部員または理事がサポートします。

言語聴覚士会は一人一人の会員と言語聴覚障害児・者のために存在すると思っています。

秋には、「健康フェスティバル」、「市民シンポジウム(脳卒中後の言葉の障害)」、「熊本失語症のつどい」、「学術研究発表会」と、行事が目白押しですが、ボランティアあるいは当事者として参加することで、きっと一人一人の会員が得られるものは大きいと思います。

ぜひ新人の方々、積極的にご参加ください。

暑さ厳しき折、皆様お体に気をつけてお過ごしください。

2.第1回学術研修会報告

7月11日、第2コスモピア（熊本託麻台病院）にて第1回学術研修会が開催されました。

日曜日の午後、しかもかなりの蒸し暑さにも関わらず、参加人数は約90人と大入りでした。今回は橋本武樹先生から「STに必要なコミュニケーションスキル」、下田祐輝先生から「医療施設による小児受け入れの必要性」、坂野成美先生から「言語聴覚療法の実務について」と多岐にわたる講演をいただきました。参加者からは「視野を広げる良い機会になった」などの感想が得られました。メディカルカレッジ青照館、福岡国際医療福祉学院からの学生ボランティアの皆様、ありがとうございました。

最後に、会場の手配などで中村先生をはじめ熊本託麻台病院の先生方には大変お世話になりました、この場をお借りしましてお礼申し上げます。学術研修部 横山典子

*研修会の日時について

研修会でのアンケートでは、参加者の殆んどが日時は今回企画の日曜午後で特に問題ないとのことでした。今回参加されなかった会員の皆様からのご意見・ご希望もどんどんお寄せください。ご連絡先は メールアドレス：kstkenshuu@ml-d3.infoseek.co.jp

3.各ブロック活動報告

[東部]

平成16年度 東部ブロック新人紹介

今年、東部ブロックに5名の新人さんが加わりました。

くまもと成仁病院 言語聴覚士 井上 明子

今年3月に柳川リハビリテーション学院を卒業し、現在くまもと成仁病院にて働いています。入職して4ヶ月が経ち臨床で様々な経験をしていく中で、学生の頃とは違う社会人としての自覚が少しずつではありますが芽生えてきました。また、リハビリという仕事の難しさを改めて感じています。これから、臨床経験を重ね技術の向上に励むとともに、自分自身人として成長できるように頑張っていきたいと思います。

くまもと成仁病院 言語聴覚士 前原 千夏

福岡国際医療福祉学院を卒業して、四月からくまもと成仁病院にて働いています。慣れない一人暮らしで淋しい時もありますが、毎日沢山の人の人と関わりあう中で、新しく学ぶことが多い充実した毎日を送っています。今は先輩方に支えられながらの毎日ですが、これから多くの経験を重ね、周囲の人から安心と信頼を得られるような言語聴覚士になりたいです。宜しくお願いします。

[西部]

西部ブロックでは8月6日(金)、天草第一病院において今年度2回目の研究会を開催しました。

今回は天草第一病院の黒田喜寿先生の症例発表「慢性期失語症者との言語療法のあり方について考えさせられた発症21年目のケース」と温泉病院天草クリニックの戸北明日美先生の文献紹介「全失語から言語治療を考えるー臨床の基本的前提へー」でした。

黒田先生からは、発症から長期を経過した失語症者に対する非流暢な発話の改善訓練の経験

が発表されました。その中で、職業的な援助のあり方、「障害受容」についての考え方、言語訓練の終了はどういう形になるのが理想的か、など、日ごろ全てのSTが直面する問題について活発な討議がなされました。

戸北先生からは、実用言語に到達するのは不可能な、「訓練不能」とさえ言われる全失語症例との著者の関わりから、ご自身の臨床の基本姿勢を考える真摯な発表がありました。何よりもまず患者様の話をじっくり聞くことを臨床の前提にしたいというお話しに、日ごろ自分もどれくらいちゃんと聞いているだろうかと省みるいい機会になりました。

今回は病院行事などと重なり出席者6名と少なかったのですが、「来られなかった人は損したよなー」という感じのする有意義な集まりでした。

今後も「成功体験だけでなく失敗体験も」「皆が悩んでいることについて率直な意見交換を」という方針で研究会を続けていきたいと思えます。ブロック外の参加や会員以外、他職種の参加も大歓迎ですので、「遠い」のをいとわれない方はいかがご参加ください。

[中部]

《中央ブロック活動報告》

7月19日に中部ブロック会（施設見学会・症例検討会）を開催しました。

今回の会場は江南病院にて参加者16名でおこないました。症例検討会では『死んでもいいから食べたい』をテーマに江南病院ST（下田・船越）より摂食嚥下障害の高リスク患者の思い・家族の思いに対しSTはどの様に関与していくべきかを参加者と検討しました。検討の中で同じようなケースを経験しているSTも多く様々な意見を聞くことができました。摂食嚥下訓練を行なうにあたって患者様の意思を尊重することは重要ことだが、「命を選ぶのか、人生の質（生きる喜び）を選ぶのか」私達はの倫理的観点からも考える必要があることを再認識することができました。

次回 中部ブロック会予定 日時：9月 17時00分 会場：熊本託麻台病院

[南部]

南部ブロックでは第3回南部ブロック勉強会が下記の通り人吉で開催されます。南部ブロック以外の方も参加自由です。たくさんの参加をお待ちしております。

記

日時：平成16年8月28日（土）午後15：00～17：00

場所：熊本県人吉市南泉田町 愛生会 外山病院 言語療法室 4階

内容：失語症の評価「破裂脳動脈瘤に伴う失語症を呈した1症例について」

小林脳神経外科 ST 飛武 大助

人吉・球磨のSTの現状について

緒方医院 ST 魚住 春菜

*交通のご案内

- ・人吉インターより車で5分
- ・人吉駅から車で5分 徒歩15分

お問い合わせは 愛生会 外山病院 川辺まで 電話（0966）22-6878

[北部]

今年度の第1回目のブロック会を平成16年6月25日（PM19：00～20：30）に開催いたしました。平日の夜、勤務の後で、皆様お疲れだったと思いますが、8施設20名の方に御参加いただきました。

今年度からは各施設の見学会も兼ねようということで、リハ室の見学の後、勉強会を行なっています。勉強会のテーマは開催場所のS Tが提供することになっていましたので、今回は青磁野リハビリテーション病院から『当院での摂食・嚥下障害へのアプローチの現状』というテーマで、チームアプローチの現状、及び在宅に戻られた3症例の経過と現在の問題点を提示いたしました。その後、参加者全員で、それぞれの現場で取り組まれている工夫点や問題点などについて意見交換を行ないました。今回の意見交換を通して、今後の業務でのヒントをいただくことができました。また、皆さん同じような悩みを抱えて取り組まれているということを実感でき、発題者としてはとても励みに思えました。今後も、できるだけ多くの方に参加いただけるよう、開催日時を調整しながら続けて行きたいと考えています。

4.学術研修部からのお知らせ

学術研修部では、県士会主催の研修会の様子を録画したものをビデオライブラリーにして会員に貸し出すサービスを開始いたしました。サービスの詳細は下記の通りです。希望される方は学術研修部 橋本（メディカル・カレッジ青照館）までお申込みください。

[貸し出し可能タイトル]

1. 平成16年度研修会（2004年7月11日）vol.1 「S Tに必要なコミュニケーション・スキル」（メディカル・カレッジ青照館 橋本 武樹先生）90分
2. 平成16年度研修会（2004年7月11日）vol.2 「医療施設による小児受け入れの必要性」（江南病院 下田 祐輝先生）60分
3. 平成16年度研修会（2004年7月11日）vol.3 「言語聴覚士の実務について」（熊本回生会病院 坂野 成美先生）90分

[貸し出しメディアの種類]

すべてDVD（テープメディアでの貸し出しは行っておりません）

[貸し出し期間]

2週間

[費用]

1タイトルあたり300円（送料は別途必要）

[その他]

貸し出しビデオに関する著作権はすべて熊本県言語聴覚士会が保有していますので、いかなる形態での複製もご遠慮ください。

万一、紛失もしくは破損された場合には、1タイトルあたり3000円をお支払いいただきます。

[申し込み方法]

①氏名、②勤務先、③送付先住所と電話番号、Fax番号および④貸し出しを希望されるタイトルを明記して、橋本 武樹（メディカル・カレッジ青照館 言語聴覚療法学科）までE-

mail かFaxにてお申込みください（お電話でのお申込みはご遠慮ください）。

E-mail hashimoto@seishoukan.ac.jp

Fax 0964-54-2213